

外来種勉強会 in 東小学校

長谷川先生の授業

平成30年5月17日 木曜日 天気:曇り 東小学校

ビオトープネットワーク中部会長の長谷川明子先生にお越しいただき、授業をしていただきました。外来種の説明や絵描き歌を用いてオオキンケイギクの特徴を学びました。

1 外来種はなぜいけないの？

「1つの場所に1種しか生きられない。」これが地球のおきてです。在来種よりも繁殖力が強い外来種がやってくると、イス取りゲームの如く、在来種の居場所がなくなってしまいます。これにより、そこにしかない固有種が絶滅してしまう危険があるのです。

2 植物の種類では愛知県が最多！

日本は国土面積が狭いにも関わらず、高等植物は5,565種あり、その固有種割合は36%と、同様の国土面積であるイギリス(1,623種)やドイツ(2,632種)よりも非常に高くなっています。

また、日本は全体が「生物多様性ホットスポット」になっています。「生物多様性ホットスポット」とは、その地域にしかない固有植物種が1,500種以上あるのに、原生の自然の70%以上が失われている地域のことです。

このように、日本は固有種の宝庫なのです。そのなかでも我が愛知県は、最も植物の種類が多い県となっています。生徒さんたちもこのことには驚いていました。

3 楽しく学ぶ絵描き歌♪

先生が考えたオオキンケイギクの絵描き歌を、みんなで歌いながら楽しく描くことで花びらや葉っぱの特徴を学びました。



外来種について勉強中！



みんな積極的に授業参加！



歌いながらお絵描き♪

駆除活動

1 校庭のフェンス沿いで駆除活動！

生徒さんたちは積極的に駆除活動を行ってくれて、校庭のフェンス沿いだけで大きなゴミ袋で6袋も駆除できました。駆除後のゴミ袋を持って、その重さに驚いていた生徒さんもありました。

2 先生への質問タイム

駆除後の質疑応答では、2つの質問ができました。

1つめは、「外来種はきれいな花が多いの？」でした。これに対して先生は、「外来種は確かに見た目が派手で目立つ花が多い。反対に在来種はお淑やかでかわいく、守ってあげたくなるような花が多い」と仰っていました。

2つめは、「フウセンカズラは外来種なの？」でした。質問した生徒さんのおばあちゃんが育てていて馴染みがあったようです。ここでは、外来種の定義を教えてくださいました。ひとつの区切りとして、明治時代以降に海外から日本に入ってきたものを外来種と呼ぶルールになっているとのことでした。厳密に言うと、私たちの主食である米(稲)も縄文時代に海外から入ってきた外来種ですが、このルールから在来種としているとのことでした。フウセンカズラも外来種ですが、先生は「一度おばあちゃんに聞いてみて、知らなければ教えてあげて」と仰っていました。

総括

今回の勉強会を通して、「さらに外来種について勉強したい」、「在来種の大切さが分かった」と言っている生徒さんがたくさんいました。自宅で家族の方と外来種について話していただき、子どもから大人へ、さらに社会全体へ自然保護の考えが広まることを期待しています。



根こそぎごっそり！



みんなで頑張って6袋も駆除できた！